

2015年度開講グローバルスタディプログラム一覧

NO	プログラム形態	開講科目	テーマ	プログラム概要	単位	対象	学期	日程	参加者数
1	フィールドリサーチ	グローバルスタディⅠ(台湾/2015夏台中)	地域社会における防犯教育	「地域社会における防犯教育」をテーマとして設定し、台湾・台中におけるフィールドスタディを行い、日本と台湾における文化の違い、防犯に対する意識の違いについて学ぶ。具体的には、少年を犯罪から守る活動、いわゆる振り込め詐欺(特殊詐欺)の実態、繁華街の治安対策、薬物対策などを主題とする。 事前学修では、日本での現状把握のため、警察署・裁判所・刑務所を訪問。現地では、地方裁判所・薬物治療センター・警察署などの施設を訪問。	1単位	2年生以上	夏	9/14～9/20	38
2	サービスラーニング	グローバルスタディⅡ(フィリピン/2015夏セブ)	山間部のコミュニティでの生活支援を通してグローバル化と格差を考える	グローバル化の進展は経済の発展を促す一方で、国内外の格差を助長している。多民族国家でもあるフィリピンも同様であり、例えば、内政的には南北の経済格差、対外政策では開発途上国という課題を抱えている。プログラムでは、セブ島の山間部のコミュニティで、小学校・高等学校での異文化交流活動、貧困・栄養不良児童を対象とした給食づくり、家庭訪問をして仕事の手伝い等、様々な貢献活動に積極的に取り組んでいく。現地の人々と日常的な交流を深めていくことで、グローバル化と格差の実態と背景を理解し、社会に生きる自分の役割と責任、貢献可能性を追求していく。	2単位	2年生以上	夏	9/6～9/17	20
3	サービスラーニング	グローバルスタディⅡ(カンボジア/2015夏プノンペン)	カンボジアの小学生に対する効果的な学習支援と防災教育	昨今、経済成長が著しいカンボジアだが、教育事情に目を転ずれば、教員の給与水準の低さ等により、教員不足が続いており、このことが児童への指導の不十分さを惹起し、就学率にも影響を及ぼしている。また、カンボジアは洪水に代表される自然災害多発国でもある。頻発する洪水からいかに身を守っていくかは大きな課題とされ続けている。 本プログラムでは、学修支援と防災教育という全く異なる2つの現状を結びつけた貢献活動として、貧困地域で生活する低学力の児童を対象とした、防災の要素を取り入れた学習・教材支援や教員への支援を行うことにより、教育活動に向けた支援を体感する。	2単位	2年生以上	夏	8/15～8/30	20
4	フィールドリサーチ	グローバルスタディⅠ(韓国/2015冬釜山)	隣国『韓国』と日本の違いを発見しよう～商品の価格や人気度は同じか、違う理由は何か～	経済のグローバル化の進展にともない、私たちが日常生活で購入する商品や利用するサービスは、日本だけでなく、様々な国から輸入されたり、提供されたりしている。一方、メイド・イン・ジャパンの商品やサービスも国境を越えて人々に広く知られ、愛用されているものが多い。また、日本ではようやく小学校での英語教育が始まったばかりだが、観光では以前から小学校での英語教育が取り入れられており、日本とは大きく状況は異なっている。 本グローバルスタディでは、私たちの身近にある製品戦略を主とするマーケティングと英語教育環境での日本と韓国の比較を通じ、日本と韓国の相違点を明らかにし、日韓の色々な市場や、消費者の行動の特徴を考察することを目的とする。事前学修では予備調査とともに、東西大学の学生と意見交換を行い、質問用紙を作成する。現地活動では、事前準備した質問紙調査調査を実施するとともに、市内の各商業施設や小学校、語学スクール、塾等を訪問して韓国での動向を明らかにする。	1単位	2年生以上	冬	2/9～2/13	46
5	フィールドリサーチ	グローバルスタディⅠ(台湾/2015冬台中)	東アジアにおける教育の現状と課題 - 台湾に焦点をあてて -	台湾の小学校などでのフィールドワークやインタビュー調査をもとに、教育の共通性と多様性について理解を深め、考察し、東アジアにおける教育の現状と課題を明らかにする。 具体的には、第一に先行研究などをもとに、日本の教育について理解を深めた上で、第二に、台中教育大学の学生のサポートを受けつつ、小学校などを訪問し、フィールドワークやインタビューを行い、台湾の教育に関する調査を実施する。これらの調査データをもとに、台湾の教育の現状を把握し、課題を明らかにするとともに、日本と台湾の教育の比較を行う。	1単位	2年生以上	冬	3/7～3/11	50
6	フィールドリサーチ	グローバルスタディⅠ(台湾/2015冬台北)	日本語ボランティアを通じて学ぶ、日本と台湾の絆	台湾住民の日本に対する親近感、「親しみを感じる」と「どちらかといえば親しみを感じる」を合わせて65%、日本国民の台湾に対する親近感も同67%である(2011駐日台北文化代表事務所)。2013年に台湾からやって来た短期訪問者数は220万人を超え、過去最高であった(日本政府観光局)。貿易においても重要なパートナーであり、東日本大震災の際は、台湾各界から人的にも物的にもたいへんな援助を受けている。このように日台は基本的に緊密かつ良好な関係を維持している。 今回は、「日本と台湾の絆」をテーマに、現在まで維持されてきたその絆を、台湾の学生との交流や現地フィールドワークなどを通じて、実際に見聞し、取材し、まとめていくことで再発見する。もって、自国への理解をより進めていくことを目的とする。	1単位	1年生以上	冬	3/1(火)～3/5(土)	40
7	サービスラーニング	グローバルスタディⅡ(ベトナム/2015冬ダナン)	日本・ベトナムの学生協働による「日本人学生向けツアー」企画・提案プログラム	ベトナム中部のダナンへは、日本からの直行便も開設され、ダナンから近い世界遺産の町「フエ」や「ホイアン」には日本人観光客の増加が期待されている。しかし、現実には、日本人は通過客が多く、なかなか滞在しないと言われている。その理由として、ベトナム流のホテル・サービスや世界遺産の町に滞在する価値が日本人に伝え切れていないという課題が考えられる。そこで、本プログラムでは、ダナン大学の学生と協働して「ダナン」、「フエ」、「ホイアン」の魅力について調査を行い、学生ならではの視点から日本人学生をターゲットにしたツアーを企画し、ステークホルダーであるHIS(HIS大阪営業所、HISダナン支店)に提案する。また、これらの活動を通して、日越の新たな交流や観光客の増加に繋がるように貢献する。	2単位	2年生以上	冬	3/2～3/13	26
8	サービスラーニング	グローバルスタディⅡ(フィリピン/2015冬セブ)	フィリピンでの教育支援を通して学ぶ身近な安全安心:問題解決型プログラムの取り組み	世界では不十分な公衆衛生サービス、不適切な衛生習慣のために、5歳未満の子どもたちが毎年880万人以上死亡している。フィリピン、特に貧困地域では子どもの生活習慣として外で用をたす、はだしで遊ぶ、手を洗わない、手で食事をするといったことが一般的である。そのため、下痢などの病気で学校を休み、授業についていけず中退してしまうことや、命を落とすことさえある。一方、日本の衛生環境や国民の衛生に関する行動は世界でも最高水準であり、日本の習慣を基準に考えることで、ゴミ捨てや手洗い、片付けのマナー等をめぐり滞日外国人との間にトラブルが起きることもある。フィリピン・セブ市山間部での課題解決に向けた教育支援を通じ、日本では当たり前すぎて見過ごしがちな「安全・安心」の意味と異文化への知見を深め、多様性の意味を具体的に理解することを目的とする。	2単位	1年生以上	冬	3/2～3/13	20
9	フィールドリサーチ	グローバルスタディⅡ(インドネシア/2015冬ジョグジャカルタ ACP)	インドネシアにおける災害発生時の犯罪抑止につながる地域資源調査	インドネシア・ジョグジャカルタは、2000年以降、これまでムラピ山の噴火やジャワ島地震などの大災害に見舞われてきた。災害後の地域では、国内・国外からの支援を受け、独自に復興を遂げている箇所が多いが、未だ十分に復興されていない地域も存在する。 また、災害後に発生する盗難、略奪、暴力行為などの抑止についてはこれまで対策が取られておらず、調査研究も進んでいない。一方、日本では阪神淡路大震災や東日本大震災後の地域における犯罪発生率は低く、共助の概念が深く浸透していることが推測される。そこで、本プログラムではインドネシアにおける災害発生時の犯罪抑止に関して、地域資源、教育方法、共助精神の涵養に着目した調査を現地の協定大学であるガジャマダ大学と共同で実施する。	2単位	2年生以上	冬	2/28～3/12	21
10	フィールドリサーチ	グローバルスタディⅡ(マレーシア/2015冬クアランプール ACP)	多民族国家マレーシアにおける災害への備えに関するリサーチプログラム	近年、マレーシアでは、急激な都市化と地球温暖化による集中豪雨により、地すべり災害・水害が多発している。マレーシアは主としてマレー系、中国系、インド系の民族が人口の多くを占めており、それぞれの文化が融合して一つの社会を形成しているため、災害時の備えに関する共通理解が十分ではなく、支援体制の構築が望まれている。 そこで、本科目ではマレー系、中国系、インド系の学生を含む、マレーシアにおける協定校であるマネジメント&サイエンス大学(以下MSU)と関西国際大学が協働し、多民族間における災害時の備えの違いについて理解を深め、事前対策、早期警戒、早期避難、被災低減化についてわが国で培われた知識や経験を活用しながら協議することで、多民族国家における望ましい支援について学ぶ。	2単位	2年生以上	冬	2/21～3/9	9
11	フィールドリサーチ	グローバルスタディⅠ(ミャンマー/2015冬ヤンゴン)	ミャンマーにおける防犯対策の現状調査	「地域社会における防犯」をテーマとして設定し、ミャンマー・ヤンゴンにおけるフィールドスタディを行う。日本とミャンマーにおける文化の違い、防犯に対する意識の違いについて学ぶ。 具体的には、犯罪の実態、繁華街の治安対策、少年を犯罪から守る活動、更生教育などが主題となる。 なお、事前学修では日本における現状を把握するために、警察署・裁判所・刑務所などへの訪問、神戸市内のフィールド調査を予定している。 現地でのフィールドワークに際しては、グループごとに具体的な調査項目を設定し、調査方法を検討した上で、分析、考察およびまとめを行う。	1単位	2年生以上	冬	2/8～2/13	10
12	フィールドリサーチ	グローバルスタディⅡ(アメリカ/2015冬シアトル)	米国の大規模災害時における危機管理体制に関するフィールドワーク	地震などの自然災害の防災(減災)という概念と取組みに対する必要性は、1995年に起こった阪神・淡路大震災を契機として世界的な認識を得たといっても過言ではない。では、どのようなインパクトを諸外国に与えたのであろうか、また、2011年に発生した東日本大震災の際には、世界からの支援が寄せられたが、海外ではどのような支援への取り組みが行われたのだろうか。 日本での報道や研究ではあまり取り上げられない、この2つの視点に立って、米国北西部のワシントン州シアトル及び州都オリンピアでフィールドリサーチやインタビュー調査を実施する。 この地域は我が国との長年の交流により、先の東日本大震災の際には地元ボランティアにより、石巻市漁業協同組合事務所の再建をはじめ多くの支援活動を行った。同時に、この地域はマグニチュード9の巨大地震の発生が予想されることから、全米でも最も優れた防災システムを行政、企業、学校、民間団体、個人ボランティア等が一体となって作り上げている。これらの組織や団体を訪問し、それぞれの取組を調査する過程を通じて、国際的な活動への動機づけを行い、安全・安心という普遍的な概念を学生一人ひとりの専門分野の学びの中に位置づけていく作業の一助とする。	2単位	2年生以上	冬	2/15～2/25	11
13	サービスラーニング	グローバルスタディⅡ(タイ/2015冬バンコク)	タイにおける社会的弱者支援	近年、大きな経済発展を遂げているタイであるが、その社会においては、賃金の格差、教育の不平等、保健衛生問題、児童労働やストリートチルドレン、障害者、ジェンダー問題などさまざまな社会福祉問題がある。本プログラムでは、こうしたタイの社会福祉問題の現状と課題について事前学修・現地調査で学び、また、現地の団体・施設等での貢献活動を行い、問題の解決のために、私たちに何が出来るのかを考えていく。また、現地では、本学の協定校であるタイのタマサート大学の学生たちと貢献活動等を協働で行うことによって、社会的な多様性とその一方での特異性を体験から学ぶ。	2単位	2年生以上	冬	2/28～3/10	18

※その他、海外インターンシップに3名参加。